



# 5月の産山村星空観察会

天空が広がるうぶやまの草原には、爽やかな薫風が吹いています。陽陽が長くなり、はやくも夏日や真夏日の便りが伝えられています。

## イベント情報

1. 日 付 令和8年5月4日(月) / 15日(金)
2. 時 間 日没後(20時00分頃) ~ 22時00分
3. 場 所 うぶやま天文台(ファームビレッジ産山内)
4. 持参物 星座早見盤(持っていない人は当日配布します。)  
★産山村民の入館料は無料です。
5. お問い合わせ 産山村教育委員会(0967-25-2214)

## 指導コラム(天体観・見どころ)

5月は「全天最大の超巨大球状星団 $\omega$ 星団を見よう」というテーマで行います。

梅雨前で季節は初夏ですが、星空は南にまだ春の星座があります。

この時期、南の空低く肉眼で見える全天で最大の球状星団 $\omega$ 星団(オメガ)を見ることができます。球状星団とは、天の川銀河形成の初期の頃にできた数十万個の恒星がボール状に集まったものです。中でも $\omega$ 星団は見かけの大きさが満月2個分ほどあり、約1000万個の恒星の集団で全天で最大の大きさです。明るさは3.7等級ですが、南の低い位置(九州では約10度、沖縄で約15度)にあるため冬のカノープス( $\beta$ -1.7等級)と同じく見るのが困難な天体です。カノープスと同じく関東以北では見えません。名前にギリシア文字 $\omega$ (オメガ)がついているのは、15世紀にバイエルがこの星団を恒星と見間違えてつけたためです。19世紀にハレーが望遠鏡で球状星団と確認しています。(次のページへ続く)

南の地平線近くであり、 $\omega$ 星団の南に南十字製や太陽系に最も近い恒星 $\alpha$ ケンタウリもありますが、これらは沖縄以南でないと見えません。

産山では南十字星の頭の2等級のガクルックスが北限なので見えるかも知れません。梅雨前の晴れ間、素晴らしい星空が楽しめるうぶやま天文台へ星見にお出かけください。

## 観察対象



### $\omega$ 星団の位置

また、春は渦巻き銀河である天の川銀河の両側の腕の星の密集している部分ではなく渦巻き銀河の上下の部分を見ているので、星が少なく、深宇宙の系外銀河や星雲、星団がよく見えます。(次のページへ続く)



$\omega$ 星団

国立天文台の副台長の渡部潤一先生が、高校生の頃、天文部の春合宿で仲間と共に見て感動した心に残る天体だと言われています。南の地平線近くにあるので、大気の影響を受けて少しオレンジ色っぽく見えます。

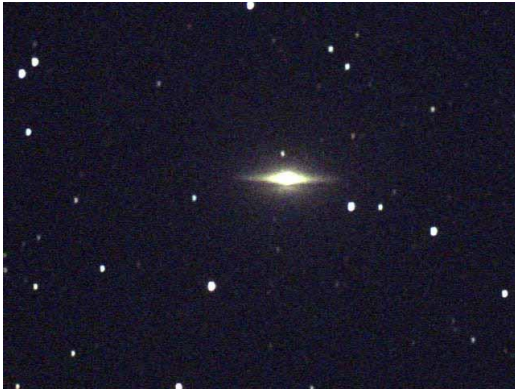
春の銀河や星団



りょうけん座の親子銀河(M51)



おおくま座の M81 と M82



おとめ座のソンプレロ銀河(M104)



かに座の散開星団プレセペ(M44)

